

古千屋

芥川龍之介

青空文庫

櫛井かしいの戦いのあつたのは元和元げんながんねん年四月二十九日だつた。大おおさ

阪勢かぜいの中でも名を知られた塙団右衛門直之ぼんだんえもんなおゆき、淡輪六郎兵たんなわろくろうびょう

衛重政えしげまさ等はいずれもこの戦いのために打ち死した。殊に塙団

右衛門直之は金きんの御幣ごへいの指し物ものに十文字じゅうもんじの槍やりをふりかざし、槍つかの柄つかの折れるまで戦つた後のち、櫛井の町の中に打ち死した。

四月三十日の未ひつじこくの刻、彼等の軍勢を打ち破つた浅野あさの但馬守たじまのかみな

長晟ながあきらは大御所おおごしよ徳川家康とくがわいえやすに戦いの勝利を報じた上、直之の

首を献けんじょう上じょうした。(家康は四月十七日以来、二条にじょうの城にとど

まっていた。それは將軍秀忠ひでただの江戸から上洛じょうらくするのを待った後のち、大阪の城をせめるためだった。この使に立ったのは長晟けいらいの家来、関宗兵衛せきそうべえ、寺川左馬助てらかわさまのすけの二人だった。

家康は本多佐渡守正純ほんださどのかみまさずみに命じ、直之の首を実検しようとした。正純は次ぎの間に退いて静に首桶くびおけの蓋ふたをとり、直之の首を内見した。それから蓋の上に正まんじを書き、さらにまた矢の根を伏せた後のち、こう家康に返事をした。

「直之なおゆきの首は暑中の折から、頬ほおたれ首くびになっております。従つて臭気も甚だしゆうございますゆえ、御検分ごけんぶんはいかがでございませうか？」

しかし家康は承知しなかった。

「誰も死んだ上は変りはない。とにかくこれへ持つて参るよう
 」。」

正純まさずみはまた次ぎの間まへ退き、母布ほろをかけた首桶を前にいつま
 でもじつと坐つていた。

「早うせぬか。」

家康は次ぎの間まへ声をかけた。遠州えんしゅう横須賀よこすかの徒士かちのものだ

つた塙たに団右衛門直之はいつか天下に名を知られた物師ものしの一人に数
 えられていた。のみならず家康の妾しやうまんお万かたの方も彼女の生よりのんだ頼

宣ぶのため一時は彼に年としごとごとに二百両の金を合ごうり力よくしていた。

最後に直之は武芸のほかにも大竜だいらりゅう和尚おしょうの会下えかに参まゐじて一字いちじふ
 不立りゆうの道を修めていた。家康のこういう直之の首を実検したい

と思つたのも必ずしも偶然ではないのだつた。……

しかし正純は返事をせずに、やはり次ぎの間に控ひかえていた成なるせ

瀬隼はいとのしよまさなり人正どいおおいのかみとしかつ成つや 土井大炊頭利勝へ問わず語りに話しかけ

た。

「とかく人と申すものは年をとるに従つて情じょうばかり剛こわくなるもの

と聞いております。大御所おおごしよほどの弓取もやはりこれだけは下しもじ

々ものものとしもお変りなさりませぬ。正純も弓矢の故実だけ

は聊いささかわきまえたつもりでおります。直之の首は一つ首でもあり、

目を見開いておればこそ、御実検をお断り申し上げました。それ

を強しいてお目通りへ持つて参れと御意ごいなさるのはその好よい証拠で

はございませぬか？」

家康は花鳥かちょうの襖ふすま越こしに正純の言葉を聞いた後のち、もちろん二度と直之の首を実検しようとは言わなかった。

二

すると同じ三十日の夜よ、井伊掃部頭直孝いいかもんのかみなおたかの陣屋じんやに召し使つかいになつていた女が一人にわか俄にわかに気の狂つたように叫び出した。彼女はやつと三十を越した、古千屋こちやという名の女だった。

「塙団右衛門ぼんだんえもんほどの侍さむらいの首も大御所おおごしよの実検には具そなえおらぬか？
それがしそれがしひとて
某たも一手の大將だったものを。こはうはいはうは辱はずしめを受けた上は必ずた崇たりをせずにはおかぬぞ。……」

古千屋はつづけさまに叫びながら、その度に空中へ踊り上ろうとした。それはまた左右の男女たちの力もほとんど抑えることの出来ないものだった。凄じい古千屋の叫び声はもちろん、彼女の彼女を引据えようとする騒ぎも一かたならないのに違いなかった。

井伊の陣屋の騒がしいことはおのずから徳川家康の耳にもはいらぬ訣には行かなかつた。のみならず直孝は家康に謁し、古千屋に直之の悪霊の乗り移つたために誰も皆恐れていることを話した。

「直之の怨むのも不思議はない。では早速実検しよう。」
家康は大蠟燭の光の中にこうきつぱり言葉を下した。

夜よふけの二に条じょうの城の居間に直之の首を実検するのは昼間ひるまよりも反かえつてもものしかつた。家康は茶色の羽織を着、下した括たくりの袴はかまをつけたまま、式通りに直之の首を実検した。そのまた首の左右には具足をつけた旗はた本もとが二人いずれも太刀たちの柄つかに手をかけ、家康の実検する間あいだはじつと首へ目を注そそいでいた。直之の首は頼たれ首ではなかつた。が、赤銅しやくどう色いろを帯びた上、本多正純ほんだまさずみのいつたように大きい両眼を見開いていた。

「これで塙団右衛門も定めし本望ほんもうでございましょう。」

旗本の一人、——横田甚右衛門よこたじんえもんはこう言つて家康に一礼した。

しかし家康は領うなずいたぎり、何なんともこの言葉に答えなかつた。のみならず直孝を呼び寄せると、彼の耳へ口をつけるようにし、

「その女の素姓すじょうだけは検しらべておけよ」と小声に彼に命令した。

三

家康の実検をすました話はもちろん井伊の陣屋にも伝わって来ずにはいなかった。古千屋こちやはこの話を耳にすると、「本望ほんもう、本望」と声をあげ、しばらく微笑を浮かべていた。それからいかにも疲れはてたように深い眠りに沈んで行った。井伊の陣屋なんにの女よたちはやっと安堵あんどの思いをした。実際古千屋の男のように太い声ののしに罵り立てるのは気味の悪いものだ。違ったのに違いなかった。そのうちに夜よは明けて行った。直孝なおたかは早速さつそく古千屋こちやを召し、

彼女の素姓すじょうを尋ねて見ることにした。彼女はこういう陣屋にいるには余りにか細い女だった。殊に肩の落ちているのはもの哀れよりもむしろ痛々しかった。

「そちはどこで産うまれたな？」

「芸州げいしゅう 広島ひろしまの御城下ごじょうかでございます。」

直孝はじつと古千屋を見つめ、こういう問答を重ねた後のち、徐おもむろに最後の問を下した。

「そちは塙ぼんのゆかりのものであろうな？」

古千屋ははつとしたらしかつた。が、ちよつとためらつた後のち、存外ぞんがいはつきり返事をした。

「はい。お羞はずかしゆうございますが……」

直之なおゆきは古千屋の話によれば、彼女に子を一人ひとり生ませていた。

「そのせいでございましょうか、昨夜さくやも御実検下さらぬと聞き、女ながらも無念に存じますと、いつか正しょうき氣を失いましたと見え、何やら口走つたように承わつております。もとよりわたくしの一いち存ちぞんには覚えのないことばかりでございしますが。……」

古千屋は両手をついたまま、明かに興奮しているらしく、それはまた彼女のやつれた姿にちょうど朝日に輝いている薄うすら氷ひに近いものを与えていた。

「善よい。善よい。もう下さがつて休息せい。」

直孝は古千屋を退けた後のち、もう一度家康の目通りめどおへ出、一々彼女の身の上を話した。

「やはり塙団右衛門ばんだんえもんにゆかりのあるものでございました。」

家康は初めて微笑びしょうした。人生は彼には東海道の地図のように明かだった。家康は古千屋の狂乱の中にもいつか人生の彼に教え、何ごとにも表裏ひょうりのあるという事実を感じない訣わけには行ゆかなかった。この推測は今度も七十歳を越した彼の経験けいけんに合あっていた。

……

「さもあるう。」

「あの女はいかがいたしましょう？」

「善よいわ、やはり召使めいしっておけ。」

直孝はやや苛立いらだたしげだった。

「けれども上かみを欺あざむきました罪は……」

家康はしばらくだまっていた。が、彼の心の目は人生の底にある闇黒あんこくに——そのまた闇黒の中にいるいろいろの怪物に向つていた。

「わたくしの一存いちぞんにとり計はからいまして、よろしいものでございませうか？」

「うむ、上を欺いた……」

それは実際直孝には疑う余地などのないことだった。しかし家康はいつの間まにか人一倍大きい目をしたまま、何か敵勢にでも向い合つたようにこう堂々と返事をした。——

「いや、おれは欺あざむかれはせぬ。」

(昭和二年五月七日)

青空文庫情報

底本：「芥川龍之介全集6」ちくま文庫、筑摩書房

1987（昭和62）年3月24日第1刷発行

1993（平成5）年2月25日第6刷発行

底本の親本：「筑摩全集類聚版芥川龍之介全集」筑摩書房

1971（昭和46）年3月～1971（昭和46）年11月

入力：j.utiyama

校正：かとうかおり

1999年2月3日公開

2004年3月8日修正

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

古千屋

芥川龍之介

2020年 7月13日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>